



2023年度第3四半期 決算リリース

ロイヤル・バンク・オブ・カナダ、2023年度第3四半期決算を発表

以下に示す金額はすべてカナダドル建てで、特に断りのない限り、国際会計基準第34号「中間財務報告」に従って提出された財務諸表に基づいています。なお、便宜上記載されている日本円への換算は、1カナダドル=107.66円（2023年8月25日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信直物売相場仲値）により計算されています。2023年度第3四半期の株主報告書および補足財務情報につきましては、当行のウェブサイトをご覧ください：<http://www.rbc.com/investorrelations>

純利益 39億ドル 前年比 8%増	希薄化後 EPS¹ 2.73ドル 前年比 9%増	合計 PCL² 6.16億ドル 貸出債権の PCL 比率 ³ は 前期比 1 bp ⁴ 低下	ROE⁵ 14.6% 前年比横ばい	CET1 比率⁶ 14.1% 規制上の所要水準を 上回る
調整後純利益⁷ 40億ドル 前年比 11%増	調整後希薄化後 EPS⁷ 2.84ドル 前年比 11%増	合計 ACL⁸ 50億ドル 貸出債権の ACL 比率 ⁹ は 前期比 2 bps 上昇	調整後 ROE⁷ 15.1% 前年比 30bps 上昇	調整後 LCR¹⁰ 134% 前四半期の 135%から 若干低下

【トロント、2023年8月24日】ロイヤル・バンク・オブ・カナダ¹¹（トロント、ニューヨーク両証券取引所のティッカーはRY）は本日、2023年度第3四半期（2023年5月1日～2023年7月31日）の純利益が前年同期の実績から2.95億ドル（約318億円）、率にして8%増加し、39億ドル（約4,199億円）になったと発表しました。希薄化後EPSは2.73ドルで、この間に9%増えました。調整後純利益⁷は40億ドル、調整後EPS⁷は2.84ドルと、いずれも前年同期に比べて11%増加しました。

当四半期の業績は貸倒引当金繰入額の拡大を反映しており、貸出債権のPCL比率は29bpsとなりました。当四半期の決算はまた、利益構成の好ましい変化を映した税負担の減少から恩恵を受けました。

貸倒引当金繰入前・税引前利益⁷は52億ドルと、前年同期の実績から3.53億ドル、率にして7%増加しました。前年同期に融資引き受けの評価損に見舞われた反動が表れたコーポレート&インベストメント・バンキング事業、およびグローバルマーケット事業における収入の増加を反映し、キャピタルマーケット部門が増収となったことが主な要因でした。金利上昇やカナダ銀行事業の業量の高い伸びを牽引役とする純金利収入の増加も増益に寄与しました。これらの要因は、給与や変動報酬、株式報酬の増加などによる人件費の拡大、そして専門家報酬の増大によって一部打ち消されました。テクノロジー投資の継続と顧客主導の高い成長を支える裁量的費用の増加も経費拡大につながりました。

前四半期との比較では、純利益はパーソナル&コマーシャル・バンキング、インシュアランス両部門の増益を反映し、6%増加しました。キャピタルマーケット部門の業績はほぼ横ばいでした。これらの要因はウェルスマネジメント部門の減益によってある程度打ち消されました。調整後純利益⁷は同期間に7%増えました。貸倒引当金繰入前・税引前利益⁷は、経費の伸びを相殺して余りある増収を背景に5%増加しました。

常勤換算（FTE）従業員数は前四半期の水準から1%減少しました。来四半期はFTEをさらにおよそ1~2%削減する見込みです。

当行の自己資本状況はCET1比率が14.1%と相変わらず健全で、業量の堅調な拡大と19億ドルの普通株式配当を支えています。平均LCRも134%と良好です。

¹ 1株利益（EPS）。

² 貸倒引当金繰入額（PCL）。

³ 貸出債権のPCL比率は、貸出債権のPCLの平均純貸出金および引受手形に対する割合として計算されています。

⁴ ベーシスポイント（bps）。

⁵ 自己資本利益率（ROE）。追加の情報につきましては、本決算リリース3~4ページの「主要な業績指標と非GAAP財務指標」のセクションをご参照ください。

⁶ この比率は、金融機関監督庁（OSFI）のバーゼル3自己資本比率規制ガイドラインに従い、普通株式等Tier1（CET1）をリスク加重資産で除して計算されています。

⁷ これはGAAPに基づかない財務指標です。会計調整を含む追加の情報につきましては、本決算リリース3~4ページの「主要な業績指標と非GAAP財務指標」のセクションをご参照ください。

⁸ 貸倒引当金（ACL）。

⁹ 貸出債権のACL比率は、貸出債権のACLの総貸出金および引受手形に対する割合として計算されています。

¹⁰ 流動性カバレッジ比率（LCR）。

¹¹ "we", "us", "our"（日本語では「当行」）、あるいは「RBC」という言葉は、場合に応じて、ロイヤル・バンク・オブ・カナダとその子会社を意味します。

「複雑な経営環境にもかかわらず、当行の第3四半期決算は、慎重なリスク管理を支えに収入と業量の堅調な伸びを一貫して達成するRBCの能力を実証しています。当行は依然として、コスト削減戦略を遂行する一方、強固なバランスシートと多角的な事業モデルを生かして自身の成長を促進し、顧客と地域社会、株主に長期的な価値を提供することを重視しています。」

——デーブ・マックイ、RBC 頭取兼最高経営責任者

2023年度第3
四半期と2022
年度第3四半期
の比較

2023年度第3
四半期と2023
年度第2四半期
の比較

2023年度初来と
2022年度初来の
比較

財務報告ベース：

純利益 38.72億ドル	↑ 8%
希薄化後EPS 2.73ドル	↑ 9%
ROE 14.6%	→ 0 bps
CET1比率 14.1%	↑ 100 bps

純利益 38.72億ドル	↑ 6%
希薄化後EPS 2.73ドル	↑ 6%
ROE 14.6%	↑ 20 bps
CET1比率 14.1%	↑ 40 bps

純利益 107.35億ドル	↓ 10%
希薄化後EPS 7.60ドル	↓ 9%
ROE 13.9%	↓ 280 bps

調整後ベース⁷：

純利益 40.17億ドル	↑ 11%
希薄化後EPS 2.84ドル	↑ 11%
ROE 15.1%	↑ 30 bps

純利益 40.17億ドル	↑ 7%
希薄化後EPS 2.84ドル	↑ 7%
ROE 15.1%	↑ 20 bps

純利益 121.18億ドル	→ 0%
希薄化後EPS 8.59ドル	↑ 2%
ROE 15.7%	↓ 120 bps

パーソナル&コマーシャル・バンキング部門

純利益は21.34億ドルと、前年同期の実績から1.11億ドル、率にして5%増加しました。（金利上昇の追い風が商品構成の変化を十二分に相殺した中での）利鞘の拡大、およびカナダ銀行事業の業量の、預金で8%、融資で6%という平均伸び率（企業向け貸し出しとクレジットカード融資の伸びは2ケタと堅調）を反映し、純金利収入が増えたことが主な要因でした。サービス料の上昇と、顧客取引の拡大を原動力とする外国為替収入も、増益に寄与しました。これらの要因は、カナダ政府の2023年予算で発表され当四半期に実行された統一売上税（HST）がペイメントカード決済サービスに与える遡及的な影響（0.66億ドルの減収）や、人件費の増加、テクノロジー投資の継続によって一部相殺されました。

前四半期に比べると、純利益は、2.19億ドル、率にして11%増えました。前四半期より3日多かった当四半期の営業日数や、利鞘の拡大、カナダ銀行事業の業量の平均2%の伸びに牽引され、純金利収入が増加したことが主因でした。信用の質やマクロ経済に関する当行の見通しの改善などによる正常債権のPCLの縮小、そしてカードサービス業務の増収も増益要因となりました。こうした要因は、上で述べたHSTのペイメントカード決済サービスへの遡及的な影響や、テクノロジー投資の継続によって部分的に打ち消されました。カナダ銀行事業の常勤換算従業員数は1%減少しました。

ウェルスマネジメント部門

純利益は6.74億ドルで、前年同期の実績から1.47億ドル、率にして18%減少しました。傘下の米シティー・ナショナルの経営インフラへの継続的な投資やPCLの拡大などを反映しましたが、これらの要因は、RBCインベスター・サービス®の欧州資産サービス事業や関連するマレーシア拠点の売却（RBCインベスター・サービスの事業の部分売却）で生じた利益によって減殺されました。ウェルスマネジメント部門はRBCブルーイン・ドルフィンを含めた運用資産残高の17%の伸びから追い風を受けました。

前四半期との比較では、純利益は、0.68億ドル、率にして9減りました。マクロ経済や信用の質に関する当行の見通しの好ましからざる変更などに伴い、正常債権のPCLが増加したことが主な要因でした。利鞘と預金量の縮小による影響などを反映した純金利収入の減少や、非金利費用の増加も減益につながりました。こうした要因は、RBCインベスター・サービスの事業の部分売却で生じた利益や、株高を映した手数料ベースの顧客の平均資産の増加によって一部打ち消されました。

インシュアランス部門

純利益は2.27億ドルと、前年同期の実績から0.41億ドル、率にして22%増加しました。好ましい運用関連実績の増加などが背景にありましたが、資本調達コストの上昇によって部分的に相殺されました。

前四半期に比べると、純利益は好ましい運用関連実績の増加を主因に、0.88億ドル、率にして63%増えました。

キャピタルマーケット部門

純利益は9.38億ドルで、前年同期の実績から3.39億ドル、率にして57%増加しました。前年同期に融資引き受けの評価損に見舞われた反動が表れたコーポレート&インベストメント・バンキング事業の増収が主な牽引役でした。利益構成の変化を反映した税負担の減少や、

あらゆる地域で債券トレーディング収入が増えたことを主因とするグローバルマーケット事業の増収も増益に寄与しました。これらの要因は、業績改善を受けた報酬の増加や PCL の拡大によって減殺されました。

前四半期に比べると、純利益はほぼ横ばいにとどまりました。利益構成の変化を反映した税負担の縮小や、株式・債券トレーディング収入の伸びなどを背景とした増収は、経費の増加と少数の業種における不良債権の PCL の拡大によって打ち消されました。

自己資本比率、流動性、および信用の質

自己資本比率——2023 年 7 月 31 日時点では、CET1 比率は 14.1%と前四半期の水準から 40bps 上昇しました。正味内部資本生成や、(株主が保有株式の配当金を現金で受け取らず自動的に再投資する) 配当再投資プラン (DRIP)、RBC インベスター・サービスの事業の部分売却の影響などを反映しました。

流動性——2023 年 7 月 31 日に終了した四半期は、平均流動性カバレッジ比率 (LCR) が 134%で、金額に換算するとおよそ 970 億ドルの余剰になりました。これに対し、前四半期は 135%で、約 1,020 億ドルの余剰でした。LCR の水準が前四半期との比較で低下したのは、RBC インベスター・サービスの事業の部分売却や融資の伸びが主な要因でしたが、預金の伸びによって一部相殺されました。

2023 年 7 月 31 日時点の安定調達比率 (NSFR) は 112%で、金額に換算するとおよそ 1,040 億ドルの余剰になりました。これに対し、前四半期は 113%で、1,100 億ドル程度の余剰でした。NSFR の前四半期に比した低下は、融資の伸びや RBC インベスター・サービスの事業の部分売却が主因でしたが、預金や安定資金調達の増加によって減殺されました。

信用の質

2023 年度第 3 四半期と 2022 年度第 3 四半期の比較

合計 PCL はキャピタルマーケット、ウェルスマネジメント両部門での繰り入れ増加などを反映し、前年同期の水準から 276 億ドル、率にして 81%拡大しました。貸出債権の PCL 比率は 12bps 上昇し、29bps となりました。不良債権の PCL 比率は 15bps 上昇の 23bps でした。

正常債権の PCL は、0.57 億ドル、率にして 32%縮小しました。カナダの住宅価格予測の上方修正など当行のマクロ経済見通しの改善を主因に、カナダ銀行事業のリテール・ポートフォリオで繰り入れが減少したことなどが背景にありました。この要因は、信用の質やマクロ経済に関する当行の見通しの好ましからざる変更を反映した、米ウェルスマネジメント事業 (シティー・ナショナルを含む) とキャピタルマーケット部門での繰り入れ拡大によって一部打ち消されました。

不良債権の PCL は、3.29 億ドル拡大しました。キャピタルマーケット部門で不動産および関連業界や輸送、工業製品など少数のセクター向けの引当金が前年同期の戻し入れから一転して繰り入れとなったことが主因でした。カナダ銀行事業のリテール・ポートフォリオで繰り入れが増えたことも拡大につながりました。

2023 年度第 3 四半期と 2023 年度第 2 四半期の比較

合計 PCL は前四半期の実績から 0.16 億ドル、率にして 3%拡大しました。ウェルスマネジメント、キャピタルマーケット両部門での繰り入れ増加が主な背景でしたが、パーソナル&コマーシャル・バンキング部門での繰り入れ減少によって大部分相殺されました。貸出債権の PCL 比率は 1bp 低下し、不良債権の PCL 比率は 2bps 上昇しました。

正常債権の PCL は、0.53 億ドル、率にして 31%縮小しました。カナダの住宅価格予測の上方修正などマクロ経済や信用の質に関する当行の見通しの改善を主な原動力に、カナダ銀行事業のリテール・ポートフォリオで繰り入れが減ったことが主に寄与しました。この要因は、マクロ経済や信用の質に関する当行の見通しの好ましからざる変更を主因に米ウェルスマネジメント事業 (シティー・キャピタルを含む) で繰り入れが増えたことによって一部打ち消されました。

不良債権の PCL は、0.58 億ドル、率にして 13%拡大しました。キャピタルマーケット部門で少数のセクター向けの繰り入れが増加したことが主な要因でした。

主要な業績指標と非 GAAP 財務指標

業績指標

当行の連結事業および各事業セグメントの業績は、純利益や ROE など複数の財務指標を使って測定、評価しています。ROE を含む一部の財務指標は、一般に公正妥当と認められる会計原則 (GAAP) の下で意味が標準化されておらず、他の金融機関が開示する同様の指標と比較できない場合があります。

非 GAAP 財務指標

一部の非 GAAP 財務指標 (非 GAAP 財務比率を含む) は、当行の継続的な経営成績をより色濃く反映し、経営陣の業績判断に対する読者の理解を促進するものと考えます。これらの指標は、2023 年 7 月 31 日までの 3 カ月間、9 カ月間の財務実績と、対応する前年の期間や 2023 年 4 月 30 日までの 3 カ月間との比較をやすくします。非 GAAP 指標は、GAAP の下で意味が標準化されておらず、他の金融機関が開示する同様の指標と比較できない場合があります。

以下は当行が経営成績の評価で使う非 GAAP 指標についての説明です。

貸倒引当金繰入前・税引前利益

貸倒引当金繰入前・税引前利益は、法人所得税（2023年度第3四半期：7.61億ドル；2023年度第2四半期：7.71億ドル；2022年度第3四半期：9.79億ドル）とPCL（2023年度第3四半期：6.16億ドル；2023年度第2四半期：6億ドル；2022年度第3四半期：3.4億ドル）を差し引く前の利益（2023年度第3四半期：38.72億ドル；2023年度第2四半期：36.49億ドル；2022年度第3四半期：35.77億ドル）として計算されています。貸倒引当金繰入前・税引前利益を用い、当行は持続的な利益成長を創出する自身の能力を、信用サイクルの循環的な性質に左右される貸倒損失を除いて評価しています。

調整後ベースの業績

以下で述べる特定項目の影響や買収関連無形資産の償却を除いた調整後ベースの業績と一部の財務指標は、それ以前の期間との比較をやすくし、根底にある事業のトレンドを読者がよりの確に評価することを可能にするものと考えます。2023年7月31日までの3カ月間と9カ月間、および2023年4月30日までの3カ月間は、次の特定項目が当行の業績に影響を与えました：

- カナダ復興配当（CRD）および他の税金関連調整：CRD、そして2022年度に適用されたカナダの法人税率の1.5%引き上げの影響を、繰延税金調整を除いて反映しています。これらの措置はカナダ政府の2022年予算で発表され、2023年度第1四半期に実行されました。
- 当行が予定するHSBCバンク・カナダ（HSBCカナダ）買収に関連した取引および統合費用。

次の表は、調整後ベースの業績を当行の財務報告ベースの業績と照合し、提示された調整項目の計算を説明したものです。以下に示す調整後ベースの業績と財務指標は非GAAP指標です。

連結業績（財務報告ベースと調整後ベース）

(1株あたり金額、実数、および百分率以外の単位は百万カナダドル)	下記の日付時点もしくは下記の日付までの3カ月間			下記の日付時点もしくは下記の日付までの9カ月間	
	2023年 7月31日	2023年 4月30日	2022年 7月31日(1)	2023年 7月31日	2022年 7月31日(1)
総収入	\$ 14,489	\$ 13,520	\$ 12,132	\$ 43,103	\$ 36,418
PCL	616	600	340	1,748	103
非金利費用	7,861	7,494	6,386	23,030	19,400
税引前利益	4,633	4,420	4,556	14,395	15,248
法人所得税	761	771	979	3,660	3,323
純利益	\$ 3,872	\$ 3,649	\$ 3,577	\$ 10,735	\$ 11,925
普通株主に帰属する純利益	\$ 3,812	\$ 3,581	\$ 3,517	\$ 10,561	\$ 11,738
平均普通株式数（千株）	1,393,515	1,388,388	1,396,381	1,388,217	1,409,292
基本1株利益（ドル）	\$ 2.74	\$ 2.58	\$ 2.52	\$ 7.61	\$ 8.33
平均希薄化後普通株式数（千株）	1,394,939	1,390,149	1,398,667	1,389,857	1,411,934
希薄化後1株利益（ドル）	\$ 2.73	\$ 2.58	\$ 2.51	\$ 7.60	\$ 8.31
ROE (2)	14.6%	14.4%	14.6%	13.9%	16.7%
実効法人所得税率	16.4%	17.4%	21.5%	25.4%	21.8%
純利益（税引前）に影響を与える調整項目合計	\$ 191	\$ 138	\$ 62	\$ 426	\$ 188
特定項目：HSBCカナダの取引および統合費用 (3)	110	56	-	177	-
買収関連無形資産の償却 (4)	81	82	62	249	188
純利益に影響を与える調整項目の法人所得税合計	\$ 46	\$ 29	\$ 16	\$ (957)	\$ 49
特定項目：CRDおよび他の税金関連調整 (3), (5)	-	-	-	(1,050)	-
特定項目：HSBCカナダの取引および統合費用 (3)	26	13	-	42	-
買収関連無形資産の償却 (4)	20	16	16	51	49
調整後ベースの業績 (6)					
税引前利益 - 調整後	4,824	4,558	4,618	14,821	15,436
法人所得税 - 調整後	807	800	995	2,703	3,372
純利益 - 調整後	\$ 4,017	\$ 3,758	\$ 3,623	\$ 12,118	\$ 12,064
普通株主に帰属する純利益 - 調整後	\$ 3,957	\$ 3,690	\$ 3,563	\$ 11,944	\$ 11,877
平均普通株式数（千株）	1,393,515	1,388,388	1,396,381	1,388,217	1,409,292
基本1株利益（ドル） - 調整後	\$ 2.84	\$ 2.66	\$ 2.55	\$ 8.60	\$ 8.43
平均希薄化後普通株式数（千株）	1,394,939	1,390,149	1,398,667	1,389,857	1,411,934
希薄化後1株利益（ドル） - 調整後	\$ 2.84	\$ 2.65	\$ 2.55	\$ 8.59	\$ 8.41
ROE - 調整後	15.1%	14.9%	14.8%	15.7%	16.9%
調整後実効法人所得税率	16.7%	17.6%	21.5%	18.2%	21.8%

(1) 2022年7月31日までの3カ月間、また2022年7月31日までの9カ月間は、特定項目がありませんでした。

(2) ROEは四捨五入する前の平均普通株主資本の実際の残高に基づいています。

(3) これらの金額はコーポレートサポート部門で認識されています。

(4) 買収関連無形資産の償却（ソフトウェアの償却を除く）、並びに、のれんの減損が及ぼす影響を表しています。

(5) CRDおよび他の税金関連調整の影響は、その他の包括利益で認識されている2億ドルを含んでいません。

(6) 2023年度第2四半期より、当行は非GAAP財務指標と非GAAP財務比率の調整項目にHSBCカナダの取引および統合費用と買収関連無形資産の償却を含めました。このため、比較される調整後ベースの業績は、非GAAP指標に関する当行の表示基準に適合させるため、以前に提示されたものから修正されています。

ROEや他の主要な業績指標と非GAAP財務指標に関する追加の情報は、当行の2023年度第3四半期株主報告書の「主要な業績指標と非GAAP財務指標」のセクションをご覧ください。

本件に関する問い合わせ先： コンプライアンス部 植田 電話 03(4577)7165